

メソアメリカ先古典期文化研究に関する諸問題

伊 藤 伸 幸

はじめに

メソアメリカにおける先古典期文化は、紀元前 2000 年頃から紀元後 300 年頃までに相当する(図 1、2)。先古典期前期には土器作りが始まり、先古典期中期には、オルメカ文化がほぼメソアメリカ全域に影響を広げた。先古典期後期には、独特な地域文化が発展していった。現在、先古典期文化研究は、各地域の枠組みで行われていることが多い。また、先古典期中期ではオルメカ文化を強調しすぎている。本稿では、メソアメリカ全域での研究状況を検討し、先古典期文化を見直す。以下、時間軸の枠組みとなる土器を中心とした編年、そして、先古典期文化研究の現状について考察し、問題点を検討する。

メソアメリカ各地方の編年

メソアメリカでは、各地方において様々な編年観がみられる(表 1)。1950 年代には、各地域の類似する土器の特徴を基に、メソアメリカ全域での先古典期編年を関連付ける試みが行われた(Sorenson, 1955)。1978 年には、新大陸全体の編年をまとめた研究が出版された。その中では、メソアメリカを東西に分けている(Lowe, 1978; Tolstoy, 1978)。以降、メソアメリカ全域を考慮する編年の試みはされておらず、各地域若しくは 1 遺跡における編年に細分されている。

以下に、メソアメリカ各地方における編年を説明する。ここでは、メソアメリカを、5 地方に分けて、先行研究から各地方の編年を概観する。メキシコ西部、メキシコ中央部、オアハカ、メキシコ湾岸、マヤの順で、考察していく。

1. メキシコ西部

メキシコ西部では、考古学調査が少ないため、先古典期の状況は不明な点が多い。メキシコ中央高原北部グアナファト、サカテカス、ドゥランゴ各州は、先古典期中・後期の資料が非常に少く、全体像が不明である(Braniff, 1972; Kelley, 1989; Foster, 1989)。ゲレロ州では、プエルト・マルケスのボックス・ポッターリーが、2440±140B.C.とされる(Brush, 1965)。しかし、後に続く土器が明らかになっていない。また、テオバンテクアニトラン、チルバンシンゴ、アトブラ、ソチパラなどのオルメカ文化に関連する遺跡が知られるようになると、ゲレロ州は他のメキ

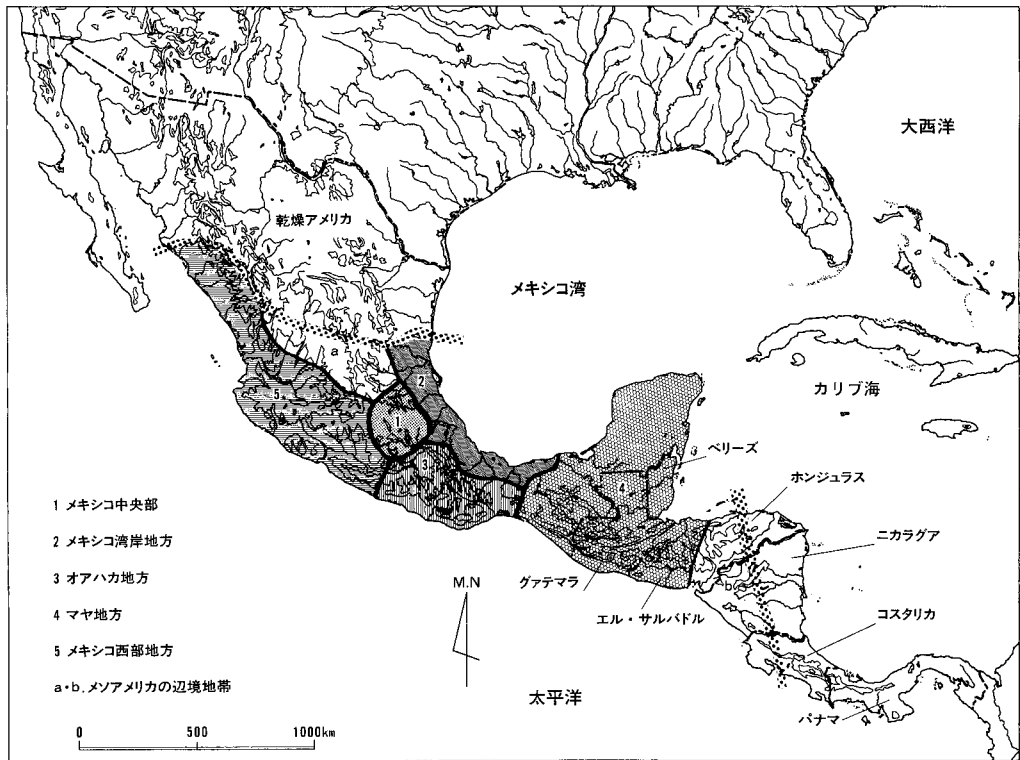


図1. メソアメリカと5地方

シコ西部とは文化が異なることが明らかになっている (Martínez, 1986; Henderson, 1979; Schmidt, 1990; Paradis, 1990)。以下、ゲレロ州以外のメキシコ西部、そして、ゲレロ州の順に述べていく。

ゲレロ州以外のメキシコ西部：コリマでは、カパチャ期は、土器と C14 年代測定によって先古典期前期 1500 B.C. に相当するとされる¹ (Kelly, 1980)。カパチャ期の土器はコリマ、ハリスコ、ナヤリ州で見られるが、シナロア州にはみられない (Baus, 1989)。先古典期の状況を、チャバラ盆地のテウチトラン遺跡からみていく。先古典期前期は、竪坑墓の出土遺物から年代をだしている。また、マウンドー墓複合からサン・フェリッペ期、アレナル期の遺物が出土した² (Weigand & Beekman, 1998)。先古典期中期には若干の遺跡が知られるのみだが、先古典期後期には遺跡数が増加する (Mountjoy, 1989)。先古典期後期、特徴ある土器がチュピクアロを中心としてメキシコ西部、メキシコ中央高原に分布していた (Porter, 1969; McBride, 1969)³。

ゲレロ州：太平洋岸地域では、先古典期の存在が知られているが、詳しい内容は分かっていない (Ekholm, 1947)。テオバンテクアニトランでは、建造物の建設時期は、1400-900 B.C. と 900-

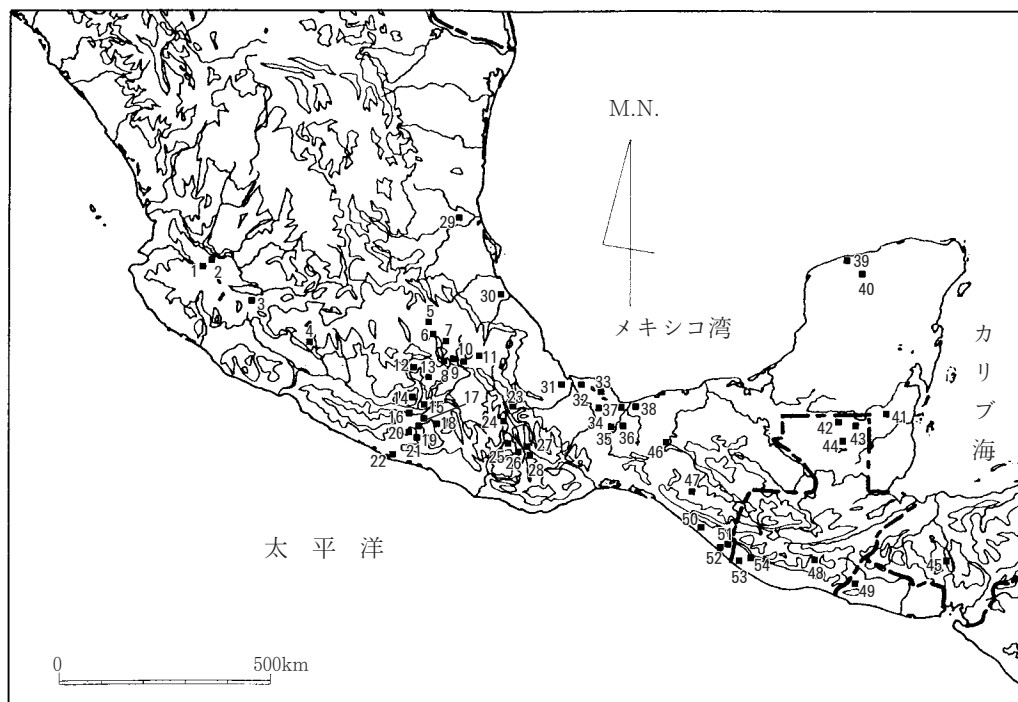


図2. メソアメリカ先古典期遺跡分布図

メキシコ西部：1.テウチトラン、2.ウイチラバ、3.エル・オペニョ、4.チュピクアロ
 メキシコ中央部：5.テオティワカン、6.メキシコ盆地遺跡群(トラティルコ、エル・アルボリヨ、サカテンコ、ティコマン、クィクィルコ、ソアピルコ、トラパコヤ)、7.トラランカレカ、8.ティンパ、9.ソティテカトル、10.チョルーラ、11.アマルカン、12.ガルピータ、13.チャルカツィンゴ
 ゲレロ州：14.アトブラ、15.テオパンテクアニトラン、16.ソチパラ、17.オストティトラン、18.カカワシキ、19.フストラワカ、20.チルパンシンゴ、21.テピラ、22.アエルト・マルケス
 オアハカ：23.テワカン、24.モンテ・ネグロ、25.ユクイタ、26.ティエラス・ラルガス、27.サン・ホセ・モゴーチ、28.モンテ・アルバン
 メキシコ湾岸：29.アルタミラノ、30.サンタ・ルイサ、31.ラ・モハーラ、32.トレス・サボテス、33.マタカパン、34.ヤノ・デ・ヒカラ、35.サン・ロレンソ、36.エル・マナティ、37.セロ・デ・ラス・メサス、38.ラ・ベントマヤ
 マヤ：39.ジビルチャルトウン、40.マニ、41.クエヨ、42.エル・ミラドール、43.サン・バルトロ、44.ワジャクトウン、45.ヤルメラ、46.チアパ・デ・コルソ、47.パドレ・ピエドラ、48.カミナルフユ、49.チャルチュアバ、50.チャンチュート、51.イサバ、52.バス・デ・ラ・アマダ、53.ラ・ブランカ、54.タカリク・アバフ

800 B.C.、800-600 B.C.に相当する (Martínez, 1986)。また、ソチパラでは、先古典期中期と後期に相当するテハス期、チチトランテベック期が想定されている (Schmidt, 1990)。アトブラにおいて、カカワナンチェ期 (1300/1250-1100/1050B.C.) はアハルパン期、コトラ期、オコス期に関連付けられる。アトブラ期 (1100/1050-900/850B.C.) は、オルメカ文化の要素が顕著になり、トラティルコ、ガルピータ、チャルカツィンゴなどのメキシコ中央部の特徴がみられ、アハルパン後期、サン・ホセ期、クアドロス期との関連がみられる。テコロトラ期 (900-800 B.C.) には、チャルカツィンゴなどのモレロス州の特徴がみられ、アハルパン後期-サンタ・マリア前期、コトラーディリ期、ホコタル期との関連もみられる。また、ベラクルス州北部 (ポン

遺跡・地域	テウチトラン	チャルカツンゴ	メキシコ盆地	メキシコ盆地	クイクルコ	テオティワカン	トラスカラープエブラ	テウカン	オアハカ	ハスコ	ハスコ盆地	サンタ・ルイサ	
西暦	Weigand & Beekman, 1998	Grovelled., 1987	Tolstoy, 1978	Niederberger, 2000	Heizer & Berryhoff, 1972	Muller, 1966	Garcia & Merino, 1989	Macneish, et al., 1970	Marcus & Flannery, 1996	MacNeish, 1954, Castaneda, 1969	Merino & Garcia, 1989, 2002	Wilkinson, 1981	
200	(古典期前期)							パロ・ブロンコ期	モンテ・アルパルン山期				
100												テコトル期	
1AD													
180C	アレナル期												
100								サンタ・マリア期後期	モンテ・アルパルン山期	エル・プリスコ期	タンツアン山期		
200			ティコマン期	ティコマン					モンテ・アルパルン山期			アロコ・グラナチ期	
300								サンタ・マリア期後期	モンテ・アルパルン山期	テラ期			
400													
500	サンフェリペ期	カンテラ期前期	クアウテペック期	サカテンコ									
600		カンテラ期後期	ラ・バスター期										
700		バラカ期前期	エル・アルポリヨ期	テデルバン				サンタ・マリア期前期		アギラル期	タンツアン山期	エステロスB期	
800									グアダルーベ期		タンパオン期	エステロスA期	
900		バラカ期中期	ボンパ期	マナンティアル	ミラパコヤ期								
1000		バラカ期後期	マナンティアル期					トラテンパ期	アハルパ心期後期	サンホセ期	ボンセ期	チャカス期	
1100	先古典期前期	アマナ期前期	アマトラ期	アマトラ								オヒナ期	
1200													
1300		アマナ期後期	ネバダ期	ネバダ					アハルパ心期前期	ティエラス・ラルガス期	ハボン期	プハル期	モンテ・コルド期
1301												アルメリア期	
1500					トラルバン期								
1600													
1700													
1800													
1900													
2000													
2100													
2200													
2300													

セーアギラル期)、メキシコ盆地 (ボンパ期)、オアハカ盆地 (サン・ホセーグアダルーベ期)、マヤ低地 (シェ期) とも関連がみられる (Henderson, 1979)。

2. メキシコ中央部

メキシコ中央部では、メキシコ盆地を中心に編年が行われている。イダルゴ州、トラスカラ州、トルーカ盆地でも調査が行われている。土器は、メキシコ盆地とほぼ同じ様相を示す (Muller, 1960; Snow, 1969)。メキシコ盆地とその周辺地域に分けて述べていく。

メキシコ盆地：ソアピルコでは、ソアピルコ期 (3000-2200B.C.) に土偶が出土しているとされるが、その後の発展段階が明らかになっていない。トラティルコ、グアダルーベ丘麓 (エル・アルポリジョ、サカテンコ、ティコマン) 遺跡群の発掘と C14 年代測定値からメキシコ盆地の編年が組まれている。トラルバン期の土器は、ティエラス・ラルガス期と似ている。コアベスコ期には、メキシコ湾岸のオルメカ文化の影響がみられる (Tolstoy, 1975, 1978; Tolstoy &

サン・ロレンソ	エル・マナティ	ラベンタ	ジビルチャルトゥン	クエゾ	チアパ・デ・コロソ	カミナルフユ	イサバ	メソアメリカ東南部太平洋岸	チャルチュアバ	
Coe & Diehl, 1980	Ortiz y Rodríguez, 2000	Rust & Sharer, 1988	Andrews IV & Andrews V, 1980	Hammond, 1991	Green & Lowe, 1967; Lee, 1969	Hatch, 1997	Lowe, et al., 1982	Blake, et al., 1995	Sharer, ed., 1978	
			シュクルル期		イストモ期	サンタ・クララ期	イスタバ期			200
									カイナック期後期	100
					オルコネス期	アレナル期	ハト期			1AD
			コムチェン期		グアナカステ期		ギジェン期		カイナック期前期	1BC
レンブラス期										100
Hiatus					フランセサ期	ベルベナ期	フロレンタール期		チュル期	200
バランガナ期			ナバンテ期							300
Hiatus		ラベンタ期後期			エスカレラ期	プロビデンシア期	エスカロン期		カル期	400
ナカステ期(デリ期)					ディリ期	マハダス期				500
										600
サン・ロレンソ期										700
					ブラテン期		デウエンデ期	コンチャス期後期	コンチャス期前期	800
チチャラス期	マカヤルA					ラス・チャルカス期		ホコタル期		900
ハヒオ期							イサバ・ホコタル期	クアドロス期		1000
オホチ期								チェルラ期	トゥク期	1100
					スワジー期		アレバロ期	イサバ・クアドロス期		1200
								オコス期		1300
										1400
								イサバ・オコス期	ロコナ期	1500
									バラ期	1600
										1700
										1800
										1900
										2000
										2100
										2200
										2300

Paradis, 1970; Tolstoy et al., 1977)。クィクィルコではピラミッド神殿の時期毎の発展を考慮に入れ、土器と C14 年代測定からティコマン期を細分している (Heizer & Bennyhoff, 1972)⁴。

メキシコ盆地の周辺地域：メキシコ盆地南東に位置するチャルカツィンゴにおける土器編年をみる⁵。アマテ期は、メキシコ盆地との関連がみられる。バランカ期には、プエブラからオアハカ北部にかけての地域と関連がみられる。カンテラ期は、バランカ期の土器伝統を引き継いでいる。カンテラ期後の遺物遺構は少ない。先古典期後期については、関連する土器はない (Grove, 1984; Grove, ed., 1987)。次に、メキシコ盆地の東に位置するトラスカラ・プエブラ地域をみる。1972 年から行われた十数年に及ぶトラスカラ・プエブラ地域の考古学調査から編年が組まれている。C14 年代測定によって得られた年代を、考古学資料から得られた相対年代と比較している。トロンパンテベック期が一番早く、テワカン地域のアハルバン期の遺物との類似がみられる。トラテンパ期には、オルメカ文化の特徴が見られる。テソロック期は、メキシコ沿岸、オアハカ、

テワカンとの関係を維持しているが、テソキバン期には先テオティワカン文化の要素が入り込んでくる (García & Merino, 1989)。

3. オアハカ

テワカンとオアハカ盆地では、ほぼ同時期に土器がつくられ始める。また、オアハカ盆地は、この地域の中心となるモンテ・アルバンがある。オアハカ地域は、北部のテワカン地域と南のオアハカ盆地にある遺跡群とに分けて、検討する。

テワカン：洞くつ遺跡から層位学的に出土した土器を分析している。ブロン期、メソアメリカで最も古い土器がつくられる。太平洋岸のプエルト・マルケス出土土器との類似がみられる。アハルバン期前期には包含層、後期からは埋葬の出土例がある。前期はバラ期、ティエラス・ラルガス期、オホチーバヒオ期などと、後期はアヨトラ期、フスト期、コトラ期、オコス期、クアドロス期、トラピチェ I 期、サン・ホセ期、サン・ロレンソ期などと同時期と考えられる。サンタ・マリア期、そしてパロ・ブランコ期が続いている。サンタ・マリア前期はグェダルーベ期、トラピチェ II 期、アギラル期、ホコタル期、コンチャス期、ディリ期、エスカレラ期、トトリカ期、マモン期などの特徴がみられる。同後期はモンテ・アルバン I 期、ティコマン期、フランセサ期、グァナカステ期、チラ期、トラピチェ III 期などと比定される。パロ・ブランコ前期はモンテ・アルバン II-III A 期、パトラチケ期、トゥクアリ期、ミカオトリ期などに関連がみられる (MacNeish, et al., ed., 1970; Johnson, F., ed., 1972)。

オアハカ：サン・ホセ・モゴテ、ティエラス・ラルガスなどの集落遺跡の考古学調査より、編年を組み立てている。また、モンテ・アルバンの土器編年を組み入れ、先古典期の年代観を示している。エスピリディオン期に、テワカンのブロン期よりやや遅れて土器がつくられ始める。ブロン期の土器と似ている。ティエラス・ラルガス期は、メキシコ盆地、テワカンと関連がみられる。また、メキシコ湾岸南部、チアパス州太平洋岸とも、一部関連がみられる。サン・ホセ期には、メキシコ盆地、メキシコ湾岸からマヤ地域のコパンにまで関連がみられるようになる (Flannery & Marcus, 1994)。モンテ・アルバン I 期には土器用窯があり、コマルもつくられる。モンテ・アルバン II 期になると、この地方に特徴的な土器をつくる。また、マヤ南部とも関連がみられる。モンテ・アルバン I-II 期、オアハカ盆地内の土器はモンテ・アルバン出土土器と類似点が多い (Marcus & Flannery, 1996)。

4. メキシコ湾岸

メキシコ湾岸地域では、3つの地域に分けられる。パヌコ流域を中心とするワステカ地域、ベラクルス州中央部そして、オルメカ文化が盛行するベラクルス州南部からタバスコ州とに分かれる。以下、順に北から南に述べていく。

パヌコ流域：メキシコ湾岸北部地域である。483 地点の試掘調査と 33 地点の層位学的調査と

C14年代測定から得られた年代を基にして、編年を組んでいる。主に、アルタミラノ(Hv24)出土土器を中心にしてしている。チャヒル期には、メキシコ中央部、タマウリパス、チアパス太平洋岸部と類似点がある。プハル期はメキシコ湾岸、メキシコ中央部、テワカン(アハルパン期)、マヤ南部太平洋岸と関連がある。チャカス期には、メキシコ中央部の要素がみられる。タンパオン期にはメキシコ湾岸やメソアメリカ南東部太平洋岸イサバの特徴がみられる。タントゥアン期には主に湾岸に類似性がみられる(Castañeda, 1989; Merino y García, 1989, 2002)。

ベラクルス州中央部：サンタ・ルイサを中心に検討する。古期に属するパロ・ウエコ期の後に断絶があるが、先古典期前期に属するラウダル期から先古典期後期のテコルトラ期までの土器資料と炭化物の年代測定から編年が組まれている。ラウダル期はテワカンのアハルパン期に類似点が多い。アメリア期にはチアパスや地峡地域の影響を受けるようになる。モンテ・ゴルド期は、土器の特徴からアハルパン期とバヒオ期と同時期である。オヒテ期は、オルメカ的な要素が多くなり、サン・ロレンソA期と類似するところがある。エステロA期には、在地的な要素が強くなるが、オルメカ文化の特徴を持っている。エステロB、アロヨ・グランデ期には、パヌコ地域との類似がみられる。(Wilkerson, 1973, 1981)。

ベラクルス州南部ータバスコ州：ここでは、サン・ロレンソ、ラ・ベンタにおいて編年が組まれている。サン・ロレンソはベラクルス州南部に属するオルメカ文化の中心遺跡である。オホチ期は資料が少ないが、メソアメリカ南東部太平洋岸オコス期との関連がみられる。バヒオ期は資料が多くなり、メキシコ中央部、メキシコ西部との関連もみられる。チチャラス期には、オルメカ文化の特徴が顕著になる。サン・ロレンソ期は、メキシコ中央部、オアハカと関連が深い。オルメカ文化の最盛期である。ナカステ期には、メキシコ中央部、マヤ中南部との関連が考えられる。サン・ロレンソ期の特徴がなくなり、新しい要素が現れる。次のパラングナ期との間には、断絶がある可能性が考えられる。マヤ低地との関連も考えられる要素がある。レンプラス期の遺物は、テワカン、グアテマラ高地などと関連がみられる⁶(Coe & Diehl, 1980)。ラ・ベンタはタバスコ州に位置するオルメカ文化の中心遺跡である。1955年の調査で得られた炭化物資料を基に、1000-600B.C.に及ぶ1-4期の編年を組んだ(Berger, et al., 1967)。その後、ラ・ベンタ近くのバリ川沿いの遺跡群の調査により、ラ・ベンタが都市として発展していく過程を復元した。また、都市として発展していく前の時期を明らかにした(Rust & Sharer, 1988)。

5. マヤ

マヤ地方のユカタン半島では、マニなどから出土した先古典期前期とされる土器があるが、先古典期中期の資料は殆ど無い。先古典期後期にならないとその具体的な姿がみえてこない(Brainerd, 1958, 1967; Folan, 1960)。また、マヤ中部低地では、先古典期中期以前には、その存在自体がみられない(Rice, 1976)。メソアメリカ南端にあるヤルメラ遺跡では、先古典期とされる遺物が出土しているが全容は不明である(Canby, 1967)。以下、メソアメリカ南東部太

平洋岸、南部高地、中部低地、北部に分けて述べていく。

メソアメリカ南東部太平洋岸：古期のチャンチュートから先古典期前中期までの遺跡調査結果から編年を組み立てている。出土土器と C14 年代測定から、古期から先古典期前中期の年代を示している (Blake, et al., 1995)。この地域では、バラ期に土器が出現するが、非常に洗練されている。以下では、この地域の中心となるイサパを中心に述べていく。海岸部から高地に至る地点にあり、建造物などの発掘から先古典期前期から後古典期までの編年が組まれている。バラ期は、他の太平洋岸の遺跡からも出土資料が知られている。イサパでは建造物の充填材からオコス期の遺物が出土している。イサパを含む太平洋岸地域でみられ、メキシコ湾岸北部との関連がみられる。クアドロス期は、早い時期のオルメカ的な要素を含む。ホコタル期は、太平洋岸地域とチアパス高地そしてメキシコ湾岸南部との関連がみられる。ドゥエンデ期には、メキシコ湾岸からエル・サルバドルにいたる太平洋岸地域に広がる特徴がみられ、外来の要素もみられる。エスカロンフロンテラ期は、エスカロン期と同様にメキシコ湾岸から太平洋岸地域との関連がみられる。ギジェン期には、メキシコ湾岸～太平洋岸そしてマヤ低地との関連がみられる。ハトーイスタパ期には、グアテマラからエル・サルバドルに至る太平洋岸地域との関連がみられる (Lowe, et al., 1982)。

マヤ南部高地：この地域の中心的な遺跡であるチアパ・デ・コロソとカミナルフユから検討する。チアパス高地のチアパ・デ・コロソでは、層位的に得られた土器資料を基に、編年を組んでいる。また、チアパ・デ・コロソ、アルタミラ、パドレ・ピエドラなどの遺跡から土器資料を得ている。コトラ期は資料が少ないが、太平洋岸のクアドロス期との強い関連が窺えるが、メキシコ中央高原との関連もみられる。ディリ・エスカレラ期は、大きな変化が現れる。エスカレラ期には、初めて他のマヤ地域との関連がみられる。また、オルメカ文化の影響が到達し、メキシコ湾岸のラ・ベンタ遺跡との関連も窺える。フランセサ期には、遺物が質量共に頂点に達する。オアハカ太平洋岸、チアパスそしてユカタン半島まで関連がみられる。グアナカステ期は、メキシコ湾岸との関係を保っているが、オアハカ、太平洋岸地域との関係もみられる。オルコネス期には、地峡地帯一帯の交易圏に入るようになる。イトモ期には、地峡地域、他のマヤ地域との関連もみられるが、ソコヌスコ地域 (チアパス州太平洋側) との関係が強くなる (Agrinier, 1964; Green & Lowe, 1967; Lee, 1969)。グアテマラ高地のカミナルフユでは、数多くの発掘調査が、建造物を含む地点で行われた。発掘調査で得られた土器資料から編年が組み立てられている。最も古いとされるアレバロ期については、資料は少ないが、グアテマラ高地では初めての土器になる。ラス・チャルカス期はグアテマラ高地に限られる。ラス・マハダス期は、グアテマラ盆地に限られる。プロビデンシア期は、コマルが出現し、マヤ南部高地から太平洋岸斜面に広がる。ベルベナ、アレナル期は、マヤ中部低地、マヤ南部地域に広く分布する特徴を持っている。サンタ・クララ期は、先古典期終末とされ、グアテマラ盆地に限られる (Hatch, 1997; Shibata, 1995; Shook y Hatch, 1999)。

マヤ中部低地：1965年にマヤ低地の土器編年を検討する会議が開かれた。各土器編年を比較し、マヤ低地全体の編年をまとめている(Willey, et al., 1967)。ここでは、先古典期中期から居住されたベリーズ北部のクエヨからこの地域の土器編年を考える。マヤ中部低地で最古の土器が出土している。小さな神殿を持つ集落遺跡で、層的に検出された遺構と遺物から編年が組まれている。スワジ期は他に比較できる資料が無いが、マニのセノータで出土した土器と似ている。ブラデン期には、北部ベリーズの他、ペテン地域のシェ期と関連がみられる。マモン期は、広い範囲で同じ要素がみられる。チカネル期には、マヤ低地全体で同じ特徴が多くみられる(Hammond, ed., 1991)。

マヤ北部：マニなどで先古典期前期とされる土器が示されているが、他に比較する資料が無い(Brainerd, 1958, 1967; Matheny & Berge, 1971)。ジビルチャルトゥンでは、北部マヤ地域で一番古い時期の遺構遺物が出土している。建造物の建設時期、土器などから編年を示している。ナバンチェ期は、カンペチェ(ベカン遺跡)やベリーズ北部と類似点がみられる。コムチェン期、シュクルル期は、カンペチェやペテンとの類似点がみられる(Andrews IV & Andrews V, 1980)。

メソアメリカ各地方の先古典期文化

メソアメリカにおいて、先スペイン期はパレオ・インディオ期、古期、先古典期、古典期、後古典期とわかれ、各時期にさまざまな文化が栄えそして衰退していった。最初に、先古典期に対する既成のイメージをまとめる。次に、各地域の先古典期文化に関する調査成果を検討する。

2000年に出版された雑誌 *Arqueología Mexicana* のなかで、先古典期前期(紀元前2500-1200年)、先古典期中期(紀元前1200-400年)、先古典期後期(紀元前400-紀元後150/200年)についてまとめている。各時期で執筆者が異なるが、一つの先古典期の姿を示している。以下に、先古典期前期・中期・後期の順にみていく。

先古典期前期、農耕による定住への移行がタマウリパス、メキシコ中央部で始まる。集落は数軒の住居から成り、違いはみられない。住居の形は地域で異なっている。貯蔵穴がみられる。また、埋葬は床下や廃棄された貯蔵穴に埋められた。自給自足経済であるが、遠隔地より運ばれてきたものもある。先古典期前期の初めは、集落の大きさも同じであったが、徐々に差がみられるようになる。オアハカでは、大きな集落の周りを小さな集落群が囲むようになる。また、住居にも違いがみられる。粘土を焼いて利用することも始められる。最も古い粘土を焼いたものは土偶で2300 B.C.に相当し、土器は1900 B.C.頃のエスピリディオン期(オアハカ)と紀元前1750年頃のカパチャ期(ハリスコ、コリマ州)が最も古い。チアパス州では、これら二つの土器とは異なり、非常に精緻な土器がバラ期(1600-1400 B.C.)につくられ始める。先古典期前期末(1400-1200 B.C.)には、土器の相違から2つの様式にメソアメリカ全体が分かれる。この時期に、土偶がつくられ始め、テワカンでは殆どが女性である(García-B., 2000)。

先古典期中期、建築の更新が始められる。自然地形を改変し、テラスをつくり、計画に従って、大きな建造物がつくられる。先古典期中期末に向かって、ピラミッド基壇がつくられるようになる。また、メソアメリカで初めて記念碑的な石彫文化が開花する。紀元前1千年紀にオルメカ様式の巨石人頭像、祭壇、石碑がメキシコ湾岸で出現する。これらの石彫には、特殊な建造物に関連する石彫もある。マヤとオアハカで石碑などに浮彫りされるが、オアハカでは文字もみられる。土器については、メキシコ湾岸、オアハカ、ゲレロ州—モレロス州、メキシコ盆地で、異なる土器伝統がみられる。在地の材料を使った日常的な土器と精製土器がある。1200—900 B.C.には、メキシコ盆地からメソアメリカ南端にかけて、装飾文様（彫刻文、刻文、細刻線文）が施された土器、白縁黒色土器（焼成を異ならせる）がみられる。一方、マヤ地域では、シェ式（低地南西部）とマモン式土器（高地からユカタン半島）がみられる。マモン期には初めての多彩文土器がつくられる。また、先古典期中期は水利施設やテラスをつくるなど土地の改変により、経済基盤がより強固になり、人口も増えた。一方、メソアメリカ全域により洗練されたオルメカ様式が広がる。また、特別な供物などにより儀礼が行われた。交易若しくは交換により、遠隔地のもの（土器、黒曜石、ヒスイ、貝）が運び込まれた（González, 2000）。

先古典期後期、最近の調査により、以前考えられていたよりも進んでいた社会であったことが分かってきている。400 B.C.はオルメカ文化の中心ラ・ベントが、崩壊した時期である。また、紀元後200年頃、メソアメリカで最も重要な帝国としてテオティワカンが出現した。この時期までに、モンテ・アルバン、 Cholula、テオティワカンなどで初めて都市をつくりだした。近隣との抗争が顕在化し、城壁、堀や戦勝首級が出現した。先古典期後期に発展し栄えた都市は、古典期になると放棄された。メソアメリカはテワンテペック地峡とベラクルス州南部を結ぶ線で東西に分けられる。メソアメリカ東部では、タバスコ州—チアパス州地域の影響力が減少した。グリハルバ流域では、大きな集落が放棄され、新しい集落が出現した。200-100 B.C.頃、低地マヤの集団がチアパス州西部に向けて移民した。中心となるチアパ・デ・コルソもその影響を受けた。一方、エル・ミラドールは、先古典期後期で最も大きな都市となった⁷。300-200 B.C.頃には、低地で初めての国をつくり、紀元前100-紀元後100年には絶頂期に達し、広い地域に支配と影響力を及ぼした。先古典期後期には、少なくとも4つの美術様式がみられる。イサバ様式では、石碑—祭壇、物語的な浮彫りがみられる。エル・ミラドール盆地からグアテマラ高地では、長期暦の最も古い日付がみられる。マヤ様式に特徴的な縦位柱状文字列が出現する。一方、太った石像が、グアテマラ、エル・サルバドルの太平洋岸地域にみられる。先古典期後期後半には、カミナルフユが数々の建造物と記念碑的な石彫を伴い、最盛期となる。また、王墓もつくられた。カミナルフユ、エル・ミラドールなどは、破壊を受け先古典期末若しくは古典期初めに放棄される。ベラクルス州メキシコ湾岸では、トレス・サポテス以外は不明な点が多い。ここでは、オルメカ様式に由来する浮彫りをつくり続ける。セロ・デ・ラス・メサス、ラ・モハラではオルメカ様式後期の可能性がある。メソアメリカ西部では、テオティワカンとモンテ・アルバンの他に、ユクイ

タ、モンテ・ネグロのような、より小さな都市が出現した。モンテ・アルバンは、この時期には都市国家に成長した。サポテカ族は初期の文字大系を獲得し、征服文字、暦文字やダンサンテ様式の石彫がつけられる。テオティワカン、200-100 B.C.に出現した。月と太陽のピラミッドの建設が始まり、この時期に太陽のピラミッドは現在の規模に達した。また、新しい建設時期に人身犠牲が捧げられた。クィクィルコ、トラパコヤはテオティワカンに先行しつけられた。先古典期中後期には、プエブラートラスカラの人口が最も稠密で、20以上の都市(トラランカレカ、アマルカン、チョルーラ他)があった。切石を使い、色漆喰で仕上げが施され、初めてタルー・タブレロ様式が出現した。テオティワカンとチョルーラが平衡して発展し、他は縮小するか集落程度になってしまった。メキシコ盆地とプエブラートラスカラでは、メキシコ西部からの影響が埋葬にみられる。この時期、南と北にメソアメリカの領域が広がった。中心となる都市の周りに人口が集中し、集約的農耕が行われるようになる。メソアメリカ西部には、いくつかの例外はあるが、王や支配者を示す記念碑的な石彫がない。メソアメリカ東部では土偶が都市の出現とともに無くなるが、西部では使われ続ける。石造建造物が一般的になる。巨大建造物、記念碑的彫刻、玉座、王墓で、権力を誇示している。しかし、A.D.200頃、先古典期後期の繁栄は突然終末を迎える(Clark & Hansen, 2000)。

以上をまとめると、土器製作の始まりは、先古典期前期2000 B.C.前後になる。先古典期中期、自然地形を改変し、大きな建造物、水利施設・テラスをつくる。文字の使用そして石彫文化が始まり、遠隔地より交易によってヒスイ、黒曜石、貝、土器などがはこびこまれる。先古典期後期には、オルメカ文化の影響が弱まり、各地の中心となる様々な遺跡が都市として発展していった。そして、古典期に重要な役割を担うテオティワカンが出現する。それ以外にも、多くの都市が出現する。

以下では、現在までの先古典期文化の調査研究成果を、各地域別に述べる。各地域では、主要遺跡を中心に検討する。

1. メキシコ西部

メキシコ西部を、オルメカ文化との関連がみられるゲレロ州とそれ以外の地域に分けて検討する。

ゲレロ州以外のメキシコ西部：先古典期前期では、カパチャ期の遺跡が、コリマ、ハリスコ、ナヤリ州にみられ、主に海岸地帯に遺跡が立地している。埋葬は知られているが、住居などについてはわかっていない。一方、竪坑墓はエル・オペニョが最も古く、1500B.C.とされる。遺物はカパチャ期の土器と類似している(Baus, 1989; Weigand & Beekman, 1998)。その後、竪坑墓文化はアレナル期まで続く(Mountjoy, 1989)。先古典期前期に属するエル・オペニョなどでは、単純に穴が掘られて造られる竪坑墓もあるが、竪坑墓の上に基壇が造られることもある。次のサン・フェリッペ期はあまりよくわかっていないが、徐々にチャパラ湖周辺に竪坑墓文化が

広がっていった。一方、アレナル期には、円形の中庭を囲むように基壇が配置される。また、2km 径の居住区が7-10km ぐらい離れたところにあり、幾つかの居住区に分かれている。竪坑墓は、円形建造物内か近接した部分より検出されることが多い。また、最大で5室の墓室を持つ竪坑墓がみついている。竪坑墓は主に竪坑の深さによって3類に分けられており、4m 以上(複数の墓室)=記念物的、2-4m=半記念物的、2m 以下=非記念物的(ブーツ状)に分類されている。前者2類は儀礼的円形区画と関連しているが、非記念碑的な類型はそれ以外の地区から検出されている。それ以外ウィチラバでは、中庭を中心に十字形に配列された基壇4基のうち、南の基壇中央から竪坑墓が検出されている。約8mの深さに墓室の入り口があり、北と南に墓室がみつかった。北側に3体、南側に2体埋葬されていた。副葬品は、多数の土器、土偶、貝製品(首飾り、鼻飾り、貝輪、ほら貝など)、ヒスイ製品(ビーズ、小像、耳飾)、石斧、メタテ、石製品(粘板岩製円盤、石英製ビーズ)、網代などが出土している。遺物と関連する炭化物の年代測定から先古典期後期とされる。他の竪坑墓からは、黒曜石製品、トルコ石製品も出土している。(Ramos y López, 1996; López and Ramos, 1998)。球戯場は、アレナル期に出土例がみられる(Weigand, 1991)⁸。

ゲレロ州：先古典期前期、テオパンテクアニトランで、土製建造物がつくられる。その後、オルメカ様式のジャガーが浮彫りされた石彫がつくられ、半地下式広場の四隅に置かれた。その後、建造物に拡張部分がつくられる(Martínez, 1986)。先古典期中期には、オルメカ文化の影響がみられる。オストティトラン、フストラワカ、カカワシキでは洞くつに多彩色の壁画がみられる。また、テピラには、オルメカ文化の特徴を持つ岩刻画がある(Villela, 1989)。チルバンシゴでは、マヤの擬似アーチを持つ墓室が検出された。擬似アーチとしては最も古い(Reyna y Martínez, 1989)。しかし、先古典期後期の様相はよく分かっていない。

2. メキシコ中央部

コアベスコ期には、メキシコ湾岸のオルメカ文化の影響がみられる。コアベスコ期からアヨトラ期かけては、メキシコ盆地のチャルコーソチミルコ湖周辺に遺跡が限られ、テオティワカン盆地には遺跡が無い。アヨトラ期にオルメカの影響がみられるが、マナンティアル期になるとその影響は消える。また、オアハカと太平洋岸とは、何らかの関連がみられるが、メキシコ湾岸とは直接関係がみられない。トラティルコでは、土製建造物がたてられた⁹。埋葬や貯蔵穴などが検出されている。埋葬は400以上出土し、階層差がみられる。トラティルコはアヨトラーマナンティアル期に相当する。マナンティアル期には、テスココ、テオティワカン地域で遺跡が増加し、チャルコーソチミルコ湖地域で遺跡が減少する。この時期、トラパコヤでは、石を使った建造物がつくられた。ボンバ、エル・アルポリヨ、ラ・パストラ前期には、メキシコ盆地西・南部において引き続き遺跡数が増大する。ラ・パストラ後期からクアウテベック期には、遺跡数がやや減少する。マナンティアル期以降、チャルコ湖において水位低下が起こったとされる。これによって、

クィクィルコが発展し、円形ピラミッド基壇などの建造物がつくられた(Niederberger, 2000; Serra P., 1994; Tolstoy, 1975, 1978; Tolstoy & Paradis, 1970; Tolstoy et al., 1977)。先古典期後期、テティンパでは、タルー・タブレロ式の建造物がつくられていた。また、住居には、部屋の隅にはカマドを持つ場合もある。また、住居の周りには、畑が広がっていた。しかし、住居が取り囲む中庭には、畑は無い(Urñuela, et al., 1998, 2001)。一方、トラスカラ地域では、ソティテカトルは先古典期中期(750-350 B.C.)に建設が始められ、先古典期後期(350B.C.-A.D.100)に完成し、A.D.100前後に放棄された。渦巻状ピラミッド、方形ピラミッドも建設された(Serra, et al., 2001)。栽培植物は、マナンティアル期若しくはそれよりも早く、トウモロコシ、マメ、カボチャなどが検出されているが、野生種のイネ科植物の種子も多く出土している(McClung, et al., 1986; Reyna & González, 1978; Smith & Tolstoy, 1981)。このため、農耕と採集は並立していたか、若しくは採集が優先していたことも考えられる。また、メキシコ盆地では古期より湖の魚なども獲っていた(Niederberger, 1979; Reyna & González, 1978)。チャルカツィングでは、アマテ期に川原石が葺かれる建造物がつくられる。バランカ期には、殆どのテラスが造成される。また、球戯場らしい並行する建造物が一部検出された。住居らしい川原石の基礎部分が検出された。埋葬は石室が無く、伸展葬である。ヒスイ製品、土器が副葬される。カンテラ期には、石が葺かれる建造物が多数つくられる。この時期に多くの石彫がつくられた。埋葬はこの時期は伸展葬が多く、土器、ヒスイ製品と共に床下に埋葬される¹⁰。竪穴石室などもあり、社会的差異もみられる。先古典期後期の埋葬は屈葬が多い(Grove, 1984; Grove, ed., 1987)。また、モレロス州では、先古典期中後期(850-450 B.C.)に属する洞くつより、栽培植物を含む多くの植物存体が出土している(Sanchez, et al., 1998; Morett, et al., 1999)。

3. オアハカ

集落遺跡の発掘などで様相が分かっているオアハカ盆地を中心に述べる。

古期の洞くつ遺跡でも居住が見られるが、先古典期前期のエスピリディオン期には、土壁片が出土しており、定住が始まったことを示している。ティエラス・ラルガス期には、西側に貯蔵穴をもつ土壁の建物がたてられる。また、西偏8度の軸を持つ公的建造物が方形基壇の上にたてられる。この建造物は、幾度か塗りかえられた漆喰の床面を持つ。埋葬は主に単葬で伸展葬であるが、数例の座葬がみられる。サン・ホセ期には、ピラミッド状基壇¹¹、石彫もつくられる。埋葬は伏臥伸展葬が多く、夫婦葬もみられる。また、口にヒスイを含ませている例が多くみられる。頭蓋変工もみられ、社会の階層分化が始まる。また、遠隔交易も始まっている¹²。グァダルーペ期には、ピラミッド基壇が大きくされる。複数の埋葬が増え、夫婦葬や家族葬があったとされる。ブロン地域では大規模なダムがつくられた¹³。ロサリオ期には、土地の改変を行い、大きな建造物がたてられる。また、初めて円形建造物(アドベブロック)がつくられるなど、他の建造物もつくられる。そして、文字が浮彫りされた石彫がつくられる。一方、多くの遺跡が放棄される。

焼土片が多量に出土しており、他からの攻撃を受けた痕跡と考えている。埋葬は前室を持つ石室の墳墓がつくられる。モンテ・アルバン I 期にはモンテ・アルバンが活動を開始する。また、オアハカ盆地では遺跡数が多くなり、防御に適した場所に立地した遺跡が多くなる。ダンサンテ様式の石彫がみられる。文字が縦位 2 列で表現される。水路網がオアハカ盆地につくられる。モンテ・アルバン II 期になると、オアハカ盆地はモンテ・アルバンを中心に国に成長する。高位の人物たちは、漆喰で仕上げられるアドベブロックの邸宅に住んでいた。また、I 字型球戯場が初めてつくられる。墳墓は十字形のアーチ状墓室を持ち、家族の構成員が後に追葬された。コウモリのヒスイ製モザイク仮面、ヒスイ製小石像も副葬された (Marcus & Flannery, 1996)。一方、経済基盤については、栽培種のトウモロコシ、アボガド、マメなどが出土しており、農耕が始まっていた (Ford, 1976; Smith, 1981)。また、組織的に犬を屠殺していたとされる (Marcus & Flannery, 1996)。

4. メキシコ湾岸

パヌコ地域、ベラクルス州中央部、ベラクルス州南部ータバスコ州と 3 地域に分けて述べていく。

パヌコ流域：ワステカ地域と知られている。パヌコ川下流域では、先古典期前期チャヒル期、獣骨、魚骨他が住居址より出土している。プハル期、埋葬、敲击締められた床面（平面形が円形若しくは楕円形）、炉など検出している。土器、淡水産貝、鹿、イノシシ、アルマジロの骨、魚骨などが出土している。チャカス期には、粉碎した貝を混ぜた土床がつくられ、オルメカ文化の影響がみられるようになる。タンパオン期は、円形もしくは半円形基壇がつくられ、小基壇の上に住居をつくる。この時期、メキシコ中央部、ベラクルス州南部、チアパス州の影響を強く受ける。タンツアン期になると、円形建造物が囲む円形広場がつくられ、ワステカ文化の伝統が形成された。漆喰で床面を仕上げる。また、石器には黒曜石製のものが多くなる。獣骨が減り、農耕への依存度が高くなる (Merino & García, 1989, 2002, 2005)。タンピコーパヌコ地域のパボン期には、若干の土壁片が出土しており、何らかの住居があった可能性がある。アギラル期には、住居址の床面らしい遺構が検出されている。チラ期には、円形若しくは楕円形の住居址、柱穴、土壁片が出土している。この時期、円錐台状基壇がつくられた。エル・プリスコ期には、更にも多くの建造物がつくられた (Ekholm, 1944; MacNeish, 1954)。

ベラクルス中央部：ラウダル期は、チアパス州のバラ期の土器の特徴を持ち、遺跡の立地も似ている。オヒテ期に初めて基壇をつくる (Wilkerson, 1973, 1981)。

ベラクルス州南部ータバスコ州：エル・マナティでは、先古典期前期マナティ A 期よりゴム球が出土し、マナティ B 期に石斧などの供物が捧げられる。また、チチャラス期以降にオルメカ様式の木彫が出土している。ゴム球も出土しているが、1200 B.C.以前は 15cm 径であったが、マカヤル期以降 25cm 径になる。球技方法の相違があった (Ortiz y Rodríguez, 1994)。オルメカの中心的遺跡サン・ロレンソでは、オホチ期は土器でしか確認されないが、パヒオ期には記念

碑的な建造物がつくられ始める。チチャラス期には、新しい要素が多く、調査者は他からの移住者と考えている。オルメカ的な要素がメソアメリカの他の地域に先駆けて出現する。サン・ロレンソ期には、記念碑的の石彫や水路がつくられる。ナカステ期には、破壊活動が盛んに行われ、土器には新しい要素が現れる。パラングナ期には、活動がサン・ロレンソに限られ、殆ど活動が見られない。レンプラス期は、土器しか出土していない。テノチティランに限られた活動しかなかった (Coe & Diehl, 1980)。また、チタン鉄鉱、磁鉄鉱、黒曜石などが交易されていた (Cyphers y Castro, 1996)。ヤノ・デ・ヒカラは、オルメカ様式の石彫がつくられた工房跡とされる (Gillespie, 1996)。一方、ラ・ベンタ¹⁴では、先古典期前期バリ期には、土器などが出土し、住居に関連する遺構が検出される。ラ・ベンタ期前期には、建築複合がつくられ始める。ラ・ベンタ後期には大きな建造物もつくられる (Rust & Sharer, 1988)。土製建造物が多くつくられ、規模も大きくなる。また、土中への奉献物も多く、大規模である。蛇紋岩のブロックで、ジャガーのモザイクをつくり、土中に埋めた。また、玄武岩質石柱で石室をつくった墳墓がつけられた (González, 1997)。先古典期中期とされる文字がラ・ベンタのサン・アンドレス地区で出土しており、湾岸地域の文字の起源がさかのぼる可能性がある (Pohl, et al., 2002)。トレス・サポテスでは、ラ・ベンタ崩壊後、先古典期後期に建造物の建設が始まり、古典期に続いていった。また、石彫などに、オルメカの伝統が引継がれた (Pool, 2000)。生業については、マタカパンでは、先古典期前期 (1400-1200B.C.) の畝状遺構が火山灰の下より検出されている。しかし、栽培されていた植物は不明である。他に、建造物、フラスコ状ピット、ゴミ捨て場が検出されている (Santley, 1992)。先古典期中期、ラ・ベンタにおいてバリ期の包含層より炭化したトウモロコシが出土しているが、農耕の実態は不明である (Rust and Leyden, 1994)。先古典期後期、トレス・サポテス近くのベスアパンでは、フラスコ状貯蔵穴、畝状遺構も検出されている (Pool, 1997)。

5. マヤ

メソアメリカ南東部太平洋岸地域、マヤ南部高地、マヤ中部低地、マヤ北部に分けて述べていく。

メソアメリカ南東部太平洋岸地域：パソ・デ・ラ・アマダでは、ロコナ期に属する大型楕円形土製建造物がつくられた。トウモロコシ、マメなどが出土している (Blake, et.al., 1992; Blake y Feddema, 1990)。また、メソアメリカで最も早いロコナ期の球戯場が検出されている (Blake & Clark, 1998)。マサタン地域では、先古典期中期コンチャス期、ラ・ブランカは前時期から発展し、オルメカ様式の石彫も出土している。また、柱穴、炉などが検出され、動植物遺存体のごみ穴から出土している (Love, 1990)。一方、タカリク・アバフでは、オルメカ様式の石彫が多く出土している。先古典期後期に属する日付を持つ石彫が出土しており、マヤ様式とされる (Graham y Benson, 1990; Clark, 1990)。イサパにおいては、オコス期からホコタル期は土器

で確認されるのみだが、ドゥエンデ期には建造物の建設が始まる。エスカロン期には大きな建造物がつくられ始める。フロンテラ期には、石彫がつくられると共に建造物の範囲と規模が大きくなる。ギジェン期はイサパ遺跡の最盛期となる。建築活動と石彫製作がもっとも盛んになり、規模が大きくなる。ハト期には、多くの埋葬はみられるが、建築活動は停止する¹⁵。イスタバ期には、F群以外に主要な部分での建築活動はまったく無くなる(Lowe, et al., 1982)。

マヤ南部高地：チアパス高地では、コトラ期の建造物は若干の痕跡がみられる。ディリ期には、建設活動が確認される。埋葬は伸展葬である。エスカレラ期には、チアパ・デ・コロソなどでピラミッド神殿などの建造物がつくられる。埋葬は床下が主であるが、ゴミ捨て場にもみられる。建物と関連して南北方向に伸展葬で埋められる。顔の部分に土器が被せられるなど、土器が副葬される。この時期、この地域最初の球戯場がつくられた。フランセサ・グァナカステ期には、墓と建造物が関連付けられるようになる。ヒスイ製品など副葬品も豊かになる。竪穴式石室を持つ墳墓もつくられる。埋葬は建造物に関連し、伸展葬で東西方向に埋められている。また、穴を開けた土器が頭部に被せられる。朱が埋葬に使用される場合がある。オルコネス期には石碑など石彫がみられ、建造物なども階層分化が進む。埋葬は朱で被うことが一般的になる。イストモ期は最も広く活動範囲が広がった。埋葬は、建造物と関連し、伸展葬で副葬品は少なくなっている。また、二次葬もみられる(Agrinier, 1964; Lee, 1969; Lowe, 1977)。

カミナルフユでは、アレバロ期より居住されていた。ラス・チャルカス期には、貯蔵穴が検出され、土壁の住居があったことが推定される。また、フラスコ状貯蔵穴より、トウモロコシ、アボガド、マメ、カカオなどの栽培植物と子供の埋葬が出土している。きのこ石、“PEDESTAL”石彫もつくられた。土製建造物がつくられる。ラス・マハダス期は、グァテマラ盆地に限られる。浮彫りされた玄武岩石柱、メキシコ湾岸オルメカとの関連がみられるヒスイ製品などがある。プロビデンシア期は“PEDESTAL”石彫、きのこ石がつくられた。ベルベナ・アレナル期は、土製建造物が立ち並ぶ都市となり、王墓と考えられるような規模の墓も建造物内部につくられた。大規模な水路もつくられた。また、焔を持つ住居も検出されている。文字も浮き彫りされ、様々な石彫がつくられた。グァテマラ高地から太平洋岸そしてエル・サルバドルとの関係が顕著である。サンタ・クララ期は、建造物など活動が減少した(Barrientos Q., 2000; Cheek, 1977; Michels, 1979; Sanders & Michels, 1969, 1973; Shook & Kidder, 1952)。チアパ・デ・コロソ2号石碑は確認された中では長期暦最古の日付を持っている。エル・サルバドルにおいては、先古典期後期、畑の畝が検出されている(Earnest, 1976)。

マヤ中部低地：クエヨは、小さな神殿を持つ集落遺跡で、層位的に検出された遺構と遺物が検出される。スワジ期では、中庭を囲む低い基壇が確認される。小石を積上げ、漆喰で仕上げをしている。ブラデン期は、中庭に面する建造物の数が増える。住居用基壇に伸展葬、屈葬、座葬の一次葬の他、二次葬もみられる。頭部に被せられる土器、ヒスイ製品などの副葬品がある。頭蓋変工もみられるが、高貴さを示していない。人身犠牲らしい埋葬もある。マモン期は、古い建造

物の上に新しい建造物をつくった。伸展葬が多く、貝製品、土器、ヒスイなどの副葬品がみられる。意図的な頭蓋変工もみられる。建造物に関連して人身犠牲がみられる。チカネル期には、石碑も立てられる。古い建造物を破壊し燃やして中庭を埋め、新しい床面をつくる。この建造物を覆うように、新しい建造物をつくっている。また、石灰岩の切石を使うようになる。供物が、石碑、建造物に捧げられる。埋葬は石灰岩質の石層の上に埋められ、石室もつくられる。座葬が多く、屈葬、伸展葬などのほかに、頭骨のみの埋葬もみられる。二次葬も多く、複数の人身犠牲も行われる。頭部に被せられる土器、ヒスイ製品、貝骨製品などが副葬される。トゥモロコシ、マメなどが出土している (Hammond, ed., 1991)。一方、ワジャクトゥンでは、マモン期に属するピラミッド神殿がつけられていた。ピラミッド側面には大きな仮面装飾がつけられている。先古典期後期、ペテン地域では、エル・ミラドルにおいて、アクロポリスやピラミッド神殿をつくっていた。70m 高の建造物、色漆喰が施された石灰岩の切石がみられる。大基壇の上に神殿を乗せた建造物を初めてつくった。色漆喰の大きな仮面装飾が、神殿正面につくられた (Hansen, 1990; Howell and Copeland, 1989)。サン・バルトロでは、先古典期後期に属するオルメカ文化の影響を受けた壁画がみついている (Saturno, et al., 2005)。

マヤ北部：ジビルチャルトゥンでは、ナバンチェ期に自然石を積上げた上に、石灰のモルタルを塗り、漆喰で仕上げられた低い基壇の上に石で作られる壁に泥漆喰(外)と漆喰(内)で仕上げられる建造物がつくられる。建造物前面の隅は丸くなっている。また、中心となる建造物群ができる。建造物に関連して、この時期より供物がみられる。埋葬は、建造物と関連している。すべて、二次葬で甕棺葬もある。また、副葬品は土器である。コムチェン期には、ナバンチェ期の基壇の高さに床面がかさ上げされ、新しい建造物が古い建造物の上につくられる。埋葬は、建造物の軸上にあり、伸展葬と屈葬がみられる。建造物に対する人身犠牲もみられる。ヒスイ、土製品、貝製品などが副葬される。シュクルル期には、基壇の数が多くなる。ナバンチェ期の基壇の高さまでかさ上げされ、手摺部分もつくられ¹⁶、建造物も規模が大きくなる。壁は、やや整形された石を、石灰のモルタルで積上げ、漆喰で仕上げる。建造物に関連して埋葬される。一次葬と二次葬があり、屈葬がみられる。甕棺葬、L字状石室を持つ墳墓がある (Andrews IV & Andrews V, 1980)。

先古典期文化研究の現状

先古典期文化研究において、現在明らかになっている点を以下に示す。土器編年、都市、集落、建造物、石彫、文字、生業、埋葬について検討する。

土器編年については、出土土器と C14 年代測定による研究が行われている。ソアピルコではソアピルコ期の土偶が知られている。また、最古の土器については、プエルト・マルケスで 2000 B.C.以前の年代が示されている。しかし、この 2 事例ともその後続く様相が明らかでない。現時

点で確実な最古の土器は、オアハカ地域のプロン期とエスピリディオン期の土器若しくはメキシコ西部のカパチャ期の土器となる。一方、メソアメリカ南東部太平洋岸で良質な土器がバラ期につくられると、メキシコ湾岸地域まで影響を与える。マヤ北部は先古典期前期の土器については、起源が不明である。先古典期前期後半、メキシコ湾岸ではサン・ロレンソ期にオルメカ様式が広がる。その後、メキシコ西部以外の全メソアメリカ地域に影響を与える¹⁷。また、マヤ北中部にはその影響が及んでいない。先古典期後期になると土器は各地域で独自の発展をする。チュピクアロ様式はメキシコ中央部まで広がり、メキシコ西部は初めて他のメソアメリカ地域と関連を持った。以上、土器からみると、最古の土器については、不明な点が多い。先古典期前期、メキシコ西部とマヤ北中部地域を除いて、メソアメリカの各地方は相互に関連している。メキシコ西部は先古典期後期まで独自の発展をする。また、先古典期中期には、オルメカ様式が広域に広がる。先古典期後期、メソアメリカの各地方は、隣接地域とは互いに影響を与えているが、各地域で独自の発展をする。

集落と都市について、みていく。集落については、先古典期前期からみられる。メキシコ西部では埋葬以外について良く分かっていない。オアハカでは、この時期に集落の一部があきらかになっており、貯蔵穴を持つ住居が検出されている。メキシコ湾岸やマヤ地域でも住居址や貯蔵穴などが検出されている。しかし、大型建造物がつくられるのは、メソアメリカ南東部太平洋岸で楕円形土製建造物が初めてとなる。規模では劣るが、ほぼ同時期にメキシコ西部、オアハカ、メキシコ湾岸、ゲレロ州でも公的な建造物がつくられる。そして、先古典期中期、メキシコ湾岸でオルメカ文化が栄え、大規模な造成が行われる。計画された軸に従って建造物が配置され、広大な面積を占めるようになる。また、この軸はオアハカでも採用されており、支配者層間での何らかの関係も考えられる。この時期、これらの大集落と関連する小集落や耕地との関係はあきらかになっていない。先古典期後期になると、テオティワカン、モンテ・アルバン、カミナルフユ、エル・ミラドルなどの大規模な建造物を伴う都市がつくられる。メキシコ中央高原のティンパは、神殿を中心とする集落で、中庭を取り囲むように住居があり、その周りに畑が広がっている。先古典期後期に都市はテオティワカンの出現と共に発展した。そして、テオティワカンはメソアメリカ最大の都市になる。

建造物については、先古典期前期には土製建造物しかみられない¹⁸。しかし、先古典期中期になると、石造建造物が出現する。土製建造物が継続してつくられるメキシコ湾岸、メソアメリカ南東部太平洋岸以外では、以後石造建造物が主流となる。また、マヤ地方で古典期に盛行する擬似アーチは、先古典期中期、ゲレロ州でみられる。次に、メソアメリカにおいて特別な意味を持つ球戯場をみる。先古典期前期にメソアメリカ南東部太平洋岸でつくられたとされる。先古典期後期になると、オアハカではI字型球戯場がつくられる。しかし、先古典期前期から先古典期中期に至る球戯場の発展段階は分かっていない。一方、球戯に使われたゴム製球はメキシコ湾岸で先古典期前期よりみられるが、先古典期中期は規格が大きくなっている。この時期に球技方法が

変わった可能性がある。

石彫については、先古典期中期、メキシコ湾岸地域で記念碑的な石彫がつけられ始める。その影響はメソアメリカ南東部太平洋岸などに広がる。先古典期後期には、各地域で特有な石彫様式が盛行する。壁画については、先古典期中期、ゲレロ州の洞くつに描かれている。以降、壁画は建造物の内部にも描かれるようになる。

メソアメリカにおける文字は、先古典期中期にオアハカ地域で始まった。しかし、メキシコ湾岸地域が起源の可能性もある。長期暦についてみると、先古典期後期になると、最古の日付がマヤ南部高地で記録される。その後、メキシコ湾岸やマヤ南部に広がっている。

生業については、古期より先古典期に至る栽培植物の発展過程が、タマウリパスとテワカン・オアハカで研究が進められた。先古典期前期、メキシコ湾岸では、畑が検出されているが、栽培された植物は不明である。先古典期中期、メキシコ中央高原、オアハカ、メソアメリカ南東部太平洋岸ではカボチャ、トウモロコシ、マメなどの栽培植物が出土している。先古典期後期、遺構から見ると、メキシコ中央高原、メキシコ湾岸、マヤ南部高地では、畑をつくり農耕を行っていたことは確実である。また、メキシコ盆地、メソアメリカ南東部太平洋岸、メキシコ湾岸では、魚骨、鱗や貝などが出土しており、海もしくは湖の資源を利用していたと考えられる。狩猟については、先古典期前期から獣骨が出土しているが、その実態は究明されていない。

埋葬については、メキシコ西部では竪坑墓が先古典期前期より後期までつくられる。ゲレロ州では、先古典期中期に擬似アーチをもつ墓室の墳墓、フラスコ状ピットなどでの埋葬がみられる。しかし、先古典期前後期については不明な点が多い。メキシコ中央部では、先古典期前中期において階層差がみられる。しかし、先古典期後期の状況は良く分かっていない。オアハカでは、先古典期前期は伸展葬が多く階層差も無いが、先古典期中期には複数の埋葬若しくは集団墓地がみられる。埋葬間には社会的差異も伺える。先古典期後期には石室を持つ墳墓がつけられた。メキシコ湾岸では、埋葬が殆どみられずその全容は不明である。マヤでは、北部はあまりよく分かっていない。中部低地では、先古典期中期より建造物床面に埋葬され、人身犠牲も行われる。先古典期後期には、石室もつけられた。マヤ南部高地では先古典期前期、伸展葬が一般的にみられ、先古典期中期には建造物と関連して副葬品とともに葬られた墳墓もみられ、先古典期後期には朱を埋葬に被せることが一般的になる。一方、人身犠牲と考えられる埋葬も、先古典期前期より、メキシコ中央部、メキシコ湾岸、マヤなどでみられる。

おわりに

先古典期文化は以前考えられていたよりも進んでいたことが明らかになりつつあり、形成期若しくは先古典期という用語は相応しくない。また、オルメカ文化の起源と終焉、先古典期後期文化の突然の終末など明らかにすべき問題点は多い。最後に、先古典期文化研究に於ける問題点を

時期別そして個別に示す。

先古典期前期は、全容が判明している遺跡は少なく、今まで調査研究が行われていない地域も考慮する必要がある。集落については、大多数が部分的に調査されており、不明な点が多い。先古典期前期始めの土器は、C14年代に振り回されている傾向がある。各地域文化の土器を比較研究し、相互の関連を見直すべきである。生業に関する考古学的資料は少なく、当時の自然環境の復元、動・植物相の変化、農耕・狩猟・漁撈・採集にかかわる道具の研究などからも取組む必要がある。埋葬は、事例が少ないため、階層・地域間で比較研究する必要がある。メソアメリカ各地方間の関連を明らかにする必要がある。

先古典期中期はオルメカ文化に研究の中心があり、それ以外の文化については理解が浅い。また、オルメカ文化の定義については曖昧さがあり検討する必要があるが、石彫、土器、建造物などから並行する時期の他地域文化との関係を明らかにする必要がある。集落については、建造物の配置など計画されたところもある。建造物も石造建造物が主流になるが、その発生と発展については全メソアメリカの視点から比較研究する必要がある。また、球戯場の起源と変遷についても、先古典期前期からの発展過程が明らかでない。生業に関しては、実態が不明である。

先古典期後期、各地で大きな建造物を伴う都市がつくられ、独自の発展がみられる。また、メキシコ中央部、オアハカ、マヤ南部高地などでは、耕地の畝部分が明らかになり、水路も検出されているが、その全容については不明である。メキシコ中央部では集落と耕地との関係もみえている。しかし、都市とそれを取り巻く集落との関係は不明な点が多い。石彫については、各地域で特徴的な様式があるが、その相互関係はあきらかでない。また、暦が先古典期中期よりあることは確かだが、長期暦の最初の日付は3114B.C.である理由は明らかになっていない。

一方、考古学調査については、主に各地域で中心となる遺跡で、しかもその心臓部に調査が偏っている。このため、中心と周辺部との関連が明らかになっていない。今後は周辺部の調査などから、都市と周辺地域との関係を研究する必要がある。また、土器編年では、墓や供物などから出土した精製土器が多く、粗製土器の様相が分からない。精製土器と粗製土器との比較分析が必要である。以上のように、先古典期文化研究においては各要素についての資料が少ないことが多く、各要素についての研究はさまざまな視点からの深化が必要である。

注

- 1 土器片付着の炭化物資料から年代を出している。しかし、土器片が表採資料のため今後の検証が必要である。
- 2 サユラ盆地では、先古典期後期に相当するウスマハック期、先古典期末から古典期前期に相当するベルディア期が、発掘調査から明らかになった (Valdez, 1998)。
- 3 Braniff は1996年に、チュピクアロ文化を4区分し、先古典期前期までさかのぼる可能性を示しているが、先古典期前期を認定するには土偶のみでその可能性を示しており、土器では確認されていない (Braniff, 1996)。ここでは、先古典期後期のみとした。
- 4 時期名のティコマンをクィクィルコに変えている。
- 5 先古典期後期とされる土偶があるが、先古典期と古典期が混じる層より出土している。サン・パブロ、ネクスパでは先古典期前期に相当する時期がある (Grove, 1974)。
- 6 ビジャ・アルタ期 (紀元後 900-1100 年) と混じった層より出土しており、注意を要する。トレス・サボテスと関連があるとされる (Coe & Diehl, 1980)。チョンタルパはサン・ロレンソ遺跡より南側に位置している。灌漑水路と道路開発に関連した試掘調査資料から、編年を組んでいる。出土資料をサン・ロレンソ遺跡の資料と比較している (Sisson, 1974)。
- 7 都市計画があり、天文観察の施設もあった可能性がある。
- 8 カンパニヨには、先古典期中期サン・フェリッペ期に属する可能性のある球戯場が出土している。
- 9 トラパコヤにも土製建造物があったとされる (Niederberger, 2000)
- 10 口にヒスイが入られることもあるが、ヒスイ製品は高貴さを示さない。ジャガー人間のヒスイ像もある。高位の埋葬には、二重環香炉、小型壺が副葬された。
- 11 初めて、アドベブロックが建造物に使われた。
- 12 サン・ホセ・モゴテでは、磁鉄鉱、赤鉄鉱、チタン鉄鉱が大量に出土した。しかし、近くに鉱脈は発見されていない (Marcus & Flannery, 1996)。
- 13 他にも、ダムや水路が報告されている。
- 14 地形学からラ・ベント周辺の変化を分析した研究がある。ラ・ベントに居住が始まった頃、遺跡はトナラ川河口に位置していた。また、孤立しており、洪水や沼沢地の拡大がみられた (Jiménez, 1990)。
- 15 30号マウンドのアクロポリスに低い小さな建造物がつくられる以外は何もつくられなかった。
- 16 手摺部分はペテン地域では形成期に起源があり、チアパ・デ・コルソではオルコネス期にみられる (Andrews IV & Andrews V, 1980)。
- 17 メキシコ西部地域で、Sunburst といわれる文様が、オルメカ文化の特徴であるサン・アンドレス・十字文に似ているとしている (Mountjoy, 1989)。一部のみであり今後の検討を要する。
- 18 エル・オベニョでは、竪坑墓に関連する建造物は石造であり、注意を要する (Weigand and Beekman, 1998)。

参考文献

- Agrinier, P.
 1964 *The Archaeological Burials at Chiapa de Corzo and Their Furniture. Papers of the New World Archaeological Foundation* 12, Brigham Young University, Provo, Utah.
 Andrews IV, E.W. and E.W. Andrews V.
 1980 *Excavations at Dzibilchaltun, Yucatan, Mexico. Publication* 48, Middle American Research Institute, Tulane University, New Orleans.
 Barrientos Q., T.
 2000 “Kaminaljuyú: ¿ Una sociedad hidráulica ?” En *XIII Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala*, editado por J.P. Laporte, et al., pp. 29-55.

- Baus de C., C.
1989 "Panorama actualizado del preclásico en Colima y regiones cercanas". En ***El Preclásico o Formativo: Avances y Perspectivas***, coordinado por M.C. Macias, pp. 27-38.
- Berger, R., J.A. Graham and R.F. Heizer.
1967 "A Reconsideration of the Age of the La Venta Site." *Contributions of the University of California Archaeological Research Facility* 3, pp.1-24.
- Blake, M., B.S. Chisholm, J.E. Clark, B. Voorhies and M.W. Love.
1992 "Prehistoric Subsistence in the Soconusco Region." *Current Anthropology* 33(1), pp. 83-94.
- Blake, B., J.E., Clark, B. Voorhies, G. Michaels, M.W. Love, M.E. Pye, A.D. Demarest and B. Arroyo.
1995 "Radiocarbon Chronology for the Late Archaic and Formative Periods on the Pacific Coast of Southeastern Mesoamerica." *Ancient Mesoamerica* 6, pp. 161-183.
- Blake, M. y V. Feddema.
1991 "Paso de la Amada: un resumen de las excavaciones, 1990." En ***Primer Foro de Arqueología de Chiapas***, editado por Consejo Estatal de Fomento a la Investigación y Difusión de la Cultura, pp. 75-85.
- Brainerd, G.W.
1951 "Early Ceramic Horizons in Yucatan." In ***The Civilizations of Ancient America: Selected Papers of the XXIXth International Congress of Americanists***, edited by S. Tax, pp. 72-78.
- 1958 ***The Archaeological Ceramics of Yucatan***. University of California Anthropological Record 19, Berkeley.
- Braniff, B.C.
1972 "Secuencias arqueológicas en Guanajuato y la cuenca de México: Intento de correlación." En ***Teotihuacán- XI Mesa Redonda***, pp. 273-323.
- 1996 "Los cuatro tiempos de la tradición Chupícuaro." *Arqueología* 16, pp. 59-68.
- Brush, C.F.
1965 "Pox Pottery: Earliest Identified Mexican Ceramic." *Science* 147, pp. 194-195.
- Canby, J.S.
1967 "Possible Chronological Implications of the Long Ceramic Sequence Recovered at Yarumela, Spanish Honduras." In ***The Civilizations of Ancient America***, edited by S. Tax, pp. 79-85.
- Castañeda, L.A.
1989 "La cerámica del formativo en la cuenca baja del Panuco." En ***El Preclásico o Formativo: Avances y Perspectivas***, coordinado por M.C. Macias, pp. 119-142.
- Cheek, C.D.
1977 "Excavations at the Palangana and the Acropolis, Kaminaljuyu." In ***Teotihuacan and Kaminaljuyu: A Study in Prehistoric Culture Contact***, edited by W.T. Sanders and J.W. Michels, pp.1-204.
- Clark, J.E.
1990 "Olmecas, olmequismo y olmequización en Mesoamérica." *Arqueología* 3, pp.49-56.
- Clark, J.E. y R.D. Hansen.
2000 "Tiempo Mesoamericano IV: Preclásico Tardío (400a.c.-200d.c.)." *Arqueología Mexicana* 46, pp.12-19.
- Coe, M.D. and R.A. Diehl.
1980 ***In the Land of the Olmec***. University of Texas Press, Austin.
- Cyphers, A y A.D. Castro.
1996 "Los artefactos multiperforados de ilmenita en San Lorenzo." *Arqueología* 16, pp. 3-13.

- Earnest, Jr., H. H.
 1976 "Investigaciones efectuadas por el proyecto no. 1, programa de rescate arqueológico Cerron Grande, en la Hacienda Santa Barbara, Depto. de Chalatenango." *Anales del Museo Nacional "David J. Guzmán"* 49, pp. 57-67.
- Eckholm, G.F.
 1944 *Excavations at Tampico and Panuco in the Huasteca, Mexico*. *Anthropological Papers of the American Museum of Natural History* 38(5), New York.
- 1947 "Ceramic Stratigraphy at Acapulco, Guerrero." En *Cuarta Reunión de Mesa Redonda: El Occidente de México*, organizado por D.F. Rubín B., pp. 95-104.
- Flannery, K.V. and J. Marcus.
 1994 *Early Formative Pottery of the Valley of Oaxaca, Mexico*. *Memoirs of the Museum of Anthropology* 27, University of Michigan, Ann Arbor.
- Folan, W.J.
 1960 "Un botellon monopodio del centro de Yucatan." *Estudios de Cultura Maya* 8, pp.67-77.
- Ford, R.I.
 1976 "Carbonized Plant Remains." In *Fabrica San Jose and Middle Formative Society in the Valley of Oaxaca*, *Memoirs of the Museum of Anthropology* 8, the University of Michigan, by Robert D. Drennan, pp. 261-268.
- Foster, M.S.
 1989 "El formativo en el noroeste de México: perspectiva." En *El Preclásico o Formativo: Avances y Perspectivas*, coordinado por M.C. Macias, pp.425-442.
- García., J.
 2000 "Tiempo Mesoamericano II: Preclásico Temprano (2500a.c.-1200a.c.)." *Arqueología Mexicana* 44, pp.12-17.
- García C., A. y B.L. Merino C.
 1989 "El formativo en la región Tlaxcala-Puebla." En *El Preclásico o Formativo: Avances y Perspectivas*, coordinado por M.C. Macias, pp.161-193.
- Gillespie, S.D.
 1996 "Llano de Jícaro: Un taller de monumentos olmeca." *Arqueología* 16, pp. 29-42.
- González L., R.B.
 1997 "Acerca de pirámides de tierra y seres sobrenaturales: observaciones preliminares en torno al edificio C-1, La Venta, Tabasco." *Arqueología* 17, pp. 79-97.
- 2000 "Tiempo Mesoamericano III: El Preclásico Medio en Mesoamérica." *Arqueología Mexicana* 45, pp.12-17.
- Graham, J.A. y L. Benson.
 1990 "Escultura olmeca y maya sobre canto en Abaj Takalik." *Arqueología* 3, pp.77-84.
- Green, D.F. and G. Lowe.
 1967 *Altamira and Padre Piedra, Early Preclassic Sites in Chiapas, Mexico*. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 20, Brigham Young University, Provo, Utah.
- Grove, D.C.
 1974 San Pablo, Nexpa, and the Early Formative Archaeology of Morelos, Mexico. *Vanderbilt University Publications in Anthropology* 12, Nashville.
- 1984 *Chalcatzingo: Excavations on the Olmec Frontier*. Thames & Hudson, London.
- Grove, D.C. (ed.)
 1987 *Ancient Chalcatzingo*. University of Texas Press, Austin.
- Hammond, N. (ed.)

- 1991 *Cuello: An Early Maya Community in Belize*. Cambridge University Press, Cambridge.
Hansen, R.D.
- 1990 *Excavations in the Tigre Complex, El Mirador, Petén, Guatemala*. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 62, Brigham Young University, Provo, Utah.
- Hatch, M.P. de.
- 1997 *Kaminaljuyú/ San Jorge: Evidencia arqueológica de la actividad económica en el valle de Guatemala, 300 a.c. a 300 d.c.* Universidad del Valle de Guatemala, Guatemala.
- Heizer, R.F. and J.A. Bennyhoff.
- 1958 "Archaeological Investigation of Cuicuilco, Valley of Mexico, 1957." *Science* 127, pp.232-233.
- 1972 "Archeological Excavations at Cuicuilco, Mexico, 1957." *National Geographic Society Research Report*, 1955-1960 Projects, pp.93-104.
- Henderson, J.S.
- 1979 *Atopula, Guerrero, and Olmec Horizons in Mesoamérica*. *Yale University Publications in Anthropology* 77, New Haven.
- Hill, W.D., M. Blake and J.E. Clark.
- 1998 "Ball Court Design Dates Back 3,400 Years." *Nature* 392, pp.878-879.
- Howell, W.K. and Copeland D.R.E.
- 1989 *Excavations at El Mirador, Petén, Guatemala: The Danta and Monos Complexes*. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 62, Brigham Young University, Provo, Utah.
- Jiménez S., O.H.
- 1990 "Geomorfología de la región de La Venta, Tabasco: Un sistema fluvio-lagunar costero del cuaternario." *Arqueología* 3, pp. 5-16.
- Johnson, F. (ed.)
- 1972 *Chronology and Irrigation. The Prehistory of the Tehuacan Valley* 4, University of Texas Press, Austin.
- Kelley, J.K.
- 1989 "The Retarded Formative of the Northwest Frontier of Mesoamerica." En *El Preclásico o Formativo: Avances y Perspectivas*, coordinado por M.C. Macias, pp.405-423.
- Kelly, I.
- 1980 *Ceramic Sequence in Colima: Capacha, an Early Phase*. *Anthropological Papers of the University of Arizona* 37, Tucson.
- Lee, Jr., T.
- 1969 *The Artifacts of Chiapa de Corzo, Chiapas, Mexico*. *Papers of the New World Archaeological Foundation* 31, Brigham Young University, Provo.
- Lopez M.C., L. and J. Ramos de la Vega.
- 1998 "Excavating the Tomb at Huitzilapa." In *Ancient West Mexico: Art and Archaeology of the Unknown Past*, edited by R.F. Townsend, pp.53-69.
- Love, M.W.
- 1990 "La Blanca y el preclásico medio en la costa del Pacífico." *Arqueología* 3, pp.67-76.
- Lowe, G.W.
- 1977 "The Mixe-Zoque as Competing Neighbors of the Early Lowland Maya." In *The Origins of Maya Civilization*, Edited by R.E.W. Adams, pp. 197-248.
- 1978 "Eastern Mesoamerica." In *Chronologies in New World Archaeology*, edited by R.E. Taylor and C.W. Meighan, pp. 331-393.
- Lowe, G.W., T.A. Lee, Jr., E. Martinez E.
- 1982 *Izapa: An Introduction to the Ruins and Monuments*. *Papers of the New World*

- Archaeological Foundation* 31, Brigham Young University, Provo.
- MacNeish, R.S., F.A. Peterson and K.V. Flannery.
- 1954 **An Early Archaeological Site near Panuco, Vera Cruz.** *Transactions of the American Philosophical Society* 44(5), Philadelphia.
- 1970 **Ceramics. The Prehistory of the Tehuacan Valley** 4, University of Texas Press, Austin.
- Marcus, J. and K. Flannery.
- 1996 **Zapotec Civilization: How Urban Society Evolved in Mexico's Oaxaca Valley.** Thames and Hudson, London.
- Martínez D.,G.
- 1986 "Teopantecuanitlan." In *Arqueología y Etnohistoria del Estado de Guerrero*, editado por R. Cervantes-D., pp. 55-80.
- Mathney, R.T. and D.L. Berge.
- 1971 "Investigations in Campeche, Mexico." *Ceramica de Cultura Maya et al.* 7, pp. 1-15.
- Mcbride, H.W.
- 1969 "The Extent of the Chupicuaro Tradition." In *The Natalie Wood Collection of Pre-Columbian Ceramics from Chupicuaro, Guanajuato, México*, edited by J.D. Frierman, pp. 33-47.
- McClung de T., E., M.C. Serra P. and A.E. Limon de D.
- 1986 "Formative Lacustrine Adaptation: Botanical Remains from Terremoto-Tlaltenco, D.F., Mexico." *Journal of Field Archaeology* 13(1), pp. 99-113.
- Merino C., B.L. y A. García C.
- 1987 "Proyecto arqueológico huasteca." *Arqueología* 1, pp.31-72
- 1989 "El formativo en la cuenca baja del Panuco." En *El Preclásico o Formativo: Avances y Perspectivas*, coordinado por M.C. Macias, pp.101-118.
- 2002 "El formativo temprano en la cuenca baja del río Pánuco: fases Chajil y Pujal." *Arqueología* 28, pp. 49-74.
- 2005 "Secuencia cultural para el formativo en la cuenca baja del río Pánuco." *Arqueología*, pp. 5-27.
- Michels, J.W.
- 1979 **Settlement Pattern Excavations at Kaminaljuyu.** The Pennsylvania State University Press Monograph Series on Kaminaljuyu, edited by J.W. Michels & W.T. Sanders, Pennsylvania.
- Morett A., L., F. Sánchez M., J.L. Alvarado y A.M. Pelz M.
- 1999 "Proyecto arqueobotánico Ticumán." *Arqueología Mexicana* 36, pp. 66-71.
- Mountjoy, J.B.
- 1989 "Algunas observaciones sobre el desarrollo del preclásico en la llanura costera del Occidente." En *El Preclásico o Formativo: Avances y Perspectivas*, coordinado por M.C. Macias, pp. 11-26.
- Muller, F.
- 1960 "The Preclassic Ceramic Sequence of Huapalcalco, HGO." In *Selected Papers of the Fifth International Congress of Anthropological and Ethnological Sciences*, edited by A.F.C. Wallace, pp. 601-611.
- 1966 "Secuencia cerámica de Teotihuacan." En *Teotihuacan Onceava Mesa Redonda*, Sociedad Mexicana de Antropológica, pp. 31-44.
- Niederberger, C.
- 1979 "Sedentary Economy in the Basin of Mexico." *Science* 203, pp. 131-142.
- 2000 "Ranked Societies, Iconographic Complexity and Economic Wealth in the Basin of Mexico toward 1200 B.C." In *The Olmec Art and Archaeology in Mesoamerica*, edited by J.E. Clark and M.E. Pye, pp. 169-191.
- Ortiz, P y M. del C. Rodríguez.

- 1994 “Los espacios sagrados olmecas: El Manatí, un caso especial.” En *Los Olmecas en Mesoamérica*, coordinado por J.E. Clark, pp. 69-91.
- 2000 “The Sacred Hill of El Manatí: A Preliminary Discussion of the Site’s Ritual Paraphernalia.” In *The Olmec Art and Archaeology in Mesoamerica*, edited by J.E. Clark and M.E. Pye, pp. 75-93.
- Paradis, L.I.
- 1990 “Revision del fenómeno olmeca.” *Arqueología* 3, pp. 33-40.
- Pohl, M.E.D., K.O. Pope and C. Nagy, von
- 2002 “Olmec Origins of Mesoamerican Writing.” *Science* 298, pp. 1984-87.
- Pool, C.A.
- 1997 “The Spatial Structure of Formative Houselots at Bezuapan.” In *Olmec to Aztec*, edited by B.L. Stark and P.J. Arnold III, pp. 40-67.
- 2000 “From Olmec to Epi-Olmec at Tres Zapotes, Veracruz, Mexico.” In *The Olmec Art and Archaeology in Mesoamerica*, edited by J.E. Clark and M.E. Pye, pp. 137-153
- Porter W., M.
- 1969 “A Reappraisal of Chupicuaro.” In *The Natalie Wood Collection of Pre-Columbian Ceramics from Chupicuaro, Guanajuato, México*, edited by J.D. Frierman, pp. 5-15.
- Rust, W.F. and B.W. Leyden.
- 1994 “Evidence of Maize Use at Early and Middle Preclassic La Venta Olmec Sites.” In *Corn and Culture in the Prehistoric New World*, edited by S. Johan, pp. 181-201.
- Ramos de la Vega, J. Y M.L. Mesta C.
- 1996 “Datos preliminares sobre el descubrimiento de una tumba de tiro en el sitio de Huitzilapa, Jalisco.” *Ancient Mesoamerica* 7(1), pp. 121-134.
- Reyna R., R.M. y L. Gonzalez Q.
- 1978 “Resultados del análisis botánico de formaciones troncocónicas en ‘Loma Torremote’ Cuatitlan, edo de México.” En *Arqueobotánica, Colección Científica* 63, coordinado por F. Sánchez M., pp. 33-41.
- Reyna R., R.N. y G. Martínez D.
- 1989 “Hallazgos funerarios de la época olmeca en Chilpancingo, Guerrero.” *Arqueología* 1, pp.13-22.
- Rice, D.S.
- 1976 “Middle Preclassic Maya Settlement in the Central Maya Lowlands.” *Journal of Field Archaeology* 3(4), pp. 425-445.
- Rust, W.F. and R.J. Sharer.
- 1988 “Olmec Settlement Data from La Venta, Tabasco, Mexico.” *Science* 242, pp. 102-104.
- Sanders, W.T. and J.W. Michels.
- 1969 *The Pennsylvania State University Kaminaljuyu Project; 1968 Season, Part-One-The Excavations. Occasional Papers in Anthropology* 2, The Pennsylvania University, Pennsylvania.
- 1973 *The Pennsylvania State University Kaminaljuyu Project; 1969, 1970 Seasons, Part-One-Mound Excavations. Occasional Papers in Anthropology* 9, The Pennsylvania University, Pennsylvania.
- Sánchez M., F., J.L. Alvarado y L. Morett A.
- 1998 “Las cuevas del Gallo y de Changüera. Inventario arqueobotánico e inferencias.” *Arqueología* 19, pp.81-89.
- Santley, R.S.
- 1992 “Consideration of the Olmec Phenomenon in the Tuxtlas.” In *The Gardens of Prehistory*, edited by T.W. Killion, pp. 150-183.

- Saturno, W.A., K.A. Taube, D. Stuart, and H. Hurst.
2005 “Los murales de San Bartolo, El Petén, Guatemala: Parte 1 El mural del norte.” *Ancient America* 7, pp. 1-56.
- Schmidt S., P.
1990 *Arqueología de Xochipala, Guerrero*. Universidad Autónoma de México, México, D.F.
- Serra P., M.C.
1994 “Presencia olmeca en el altiplano.” En *Los Olmecas en Mesoamérica*, coordinado por J.E. Clark, pp.175-187.
- Serra P., M.C., J.C. Lazcano A., y L. Torres S.
2001 “Actividades rituales en Xochitecatl-Cacaxtla, Tlaxcala.” *Arqueología* 25, pp.71-88.
- Sharer, R.J. (ed.)
1978 *The Prehistory of Chalchuapa, El Salvador* 1-3. University of Pennsylvania Press, Philadelphia.
- Shook, E.M. and A.V. Kidder.
1952 *Mound E-III-3, Kaminaljuyu, Guatemala. American Anthropology and History* 53, Publication 596, pp. 33-127, Carnegie Institution of Washington, Washington, D.C.
- Shibata, S.
1995 “Recopilación de la historia de los estudios cronológicos de Kaminaljuyu.” En *Kaminaljuyu*, editado por K. Ohi, pp.53-89.
- Shook, E.M. y M.P. Hatch, de.
1999 “Las tierras altas centrales: Períodos preclásico y clásico.” En *Historia General de Guatemala* 1, editado por J. Luján M., pp. 289-318.
- Sisson, E.B.
1974 “Settlement Patterns and Land Use in the Northwestern Chontalpa, Tabasco, Mexico: A Progress Report.” *Ceramica de Cultura Maya et al.* 6, pp.41-54.
- Smith Jr., C.E. and P. Tolstoy.
1981 “Vegetation and Man in the Basin of Mexico.” *Economic Botany* 35(4), pp. 415-433.
- Smith, J.E.
1981 “Formative Botanical Remains at Tomaltepec.” In *Excavations at Santo Domingo Tomaltepec: Evolution of a Formative Community in the Valley of Oaxaca, Mexico, Memoirs of the Museum of Anthropology University of Michigan* 12, edited by M. E. Whalen, pp. 186-194.
- Snow, D.R.
1969 “Ceramic Sequence and Settlement Location in Pre-Hispanic Tlaxcala.” *American Antiquity* 34(2), pp. 131-145.
- Sorenson, J.L.
1955 “A Chronological Ordering of the Mesoamerican Pre-Classic.” *Middle American Research Records* II(3), pp. 43-68.
- Tolstoy, P.
1975 “Settlement and Population Trends in the Basin of Mexico (Ixtapaluca and Zacatenco Phase).” *Journal of Field Archaeology* 2(4), pp. 331-349.
- 1978 “Western Mesoamerica before A.D. 900.” In *Chronologies in New World Archaeology*, edited by R.E. Taylor and C.W. Meighan, pp. 285-329.
- Tolstoy, p., S.K. Fish, M.W. Bokenbaum, K.B. Vaugh and C.E. Smith.
1977 “Early Sedentary Communities of the Basin of Mexico.” *Journal of Field Archaeology* 4(1), pp. 91-106.
- Tolstoy, P. and L.I. Paradis.

- 1970 "Early and Middle Preclassic Culture in the Basin of Mexico." *Science* 167, pp. 344-351.
Townsend, R.F.
- 1998 *Ancient West Mexico: Art and Archaeology of the Unknown Past*. Thames and Hudson, London.
- Uruñuela, G., L. de Guerra y P. Plunket N.
- 1998 "Áreas de actividad en unidades domésticas del formativo terminal en Tetimpa, Puebla." *Arqueología* 20, pp. 3-19.
- 2001 "¿De piedra ha de ser cama...?": Las tumbas en el formativo de Puebla-Tlaxcala y la cuenca de México, a partir de la evidencia de Tetimpa, Puebla." *Arqueología* 25, pp.3-22.
- Valdez, F.
- 1998 "The Sayula Basin: Ancient Settlements and resources." In *Ancient West Mexico: Art and Archaeology of the Unknown Past*, edited by R.F. Townsend, pp.217-231.
- Villela F., S.
- 1989 "Nuevo testimonio rupestre olmeca en el oriente de Guerrero." *Arqueología* 2 pp.37-48.
- Weigand, P.C. and C.S. Beekman.
- 1991 "The Western Mesoamerican Tlachco: A Two-Thousand Perspective." In *The Mesoamerican Ballgame*, edited by V.L. Scarborough and D.R. Wilcox, pp. 73-86.
- Weigand, P.C. and C.S. Beekman.
- 1998 "The Teuchitlan Tradition Rise of a Statelike Society." In *Ancient West Mexico: Art and Archaeology of the Unknown Past*, edited by R.F. Townsend, pp.35-51.
- Wilkerson, S.J.K.
- 1973 "An Archaeological Sequence from Santa Luisa, Veracruz, Mexico." *Contributions of the University of California Archaeological Research Facility* 18, pp.37-50.
- 1981 "The Northern Olmec and Pre-Olmec Frontier on the Gulf Coast." In *The Olmec & Their Neighbors: Essay in Memory of Matthew W. Stirling*, edited by E.P. Benson, pp.181-194.
- Willey, G.R., T.P. Culbert and R.E. Adams.
- 1967 "Maya Lowland Ceramics: A Report from the 1965 Guatemala City Conference." *American Antiquity* 32(3), pp. 289-315.

Abstract

Los problemas del período de Preclásico en Mesoamérica.

ITO Nobuyuki

Hasta la fecha se han realizado varias investigaciones arqueológicas enfocadas en el período Preclásico. Estas se concentran, principalmente, en las estructuras importantes y hay muy pocas que se centran en las aldeas o pueblos contemporáneas. Sin embargo para tener una imagen completa de la cultura preclásica, hay que recopilar y revisar todos resultados de las investigaciones. Haciendo esto, se tienen varios problemas que impiden reconstruir a totalidad la sociedad preclásica.

Hasta este momento, por medio de la cerámica, no se tiene claro el inicio del Preclásico Temprano en toda Mesoamérica. Todavía no se tienen datos claros sobre el Preclásico Temprano en el norte y centro del área maya. En el norte y centro del área maya y en el occidente de México, no se encontró ninguna evidencia de presencia olmeca, pero no han investigado la razón. Tampoco se conoce mucho sobre las culturas contemporáneas con la cultura olmeca. Pueblos gigantes, como La Venta, El Mirador, Kaminaljuyu, entre otros, semejante a una ciudad, estuvo ocupado hasta la formación de Teotihuacan. Sin embargo, hasta el momento, no se han investigado las relaciones entre este “Pueblo Gigante” y las aldeas o pueblos cercanos. Tampoco se sabe mucho sobre la subsistencia y las actividades cotidianas, como agricultura, colección, caza, pesca y etc.